

まえがき

老人ホームに入ってから、日課として毎日決められている行事とリハビリを行う。その余暇に、好きな絵描きをしている。入所前もそうだったが、時間の余裕があれば絵を描いていたから、その持ち込みで、ただ違うのは絵の対象が限られてしまったこと。自宅住みなら道端の花や風景を自由に描けたのに、それが出来なくなった。一計を案じ、テレビを見ていて良い画面をカメラに納め、それを基に描くことにした。

そんな毎日の27年6月のある日、ワタミの介護の吉田社長が来所された。そして栗山ホーム長の案内で小生室に来られ、趣味の絵について質問対話があった。私は前12巻の前書きで「出版」は今後なしと述べたが、この点にふれると吉田社長から、次号も作ってくださいと要望された。この言葉は嬉しく私の心を打った。

そうだ、頑張ろう。それからは、早起きで時間を産み出し、1点1点入念に描きつつピッチを上げて制作に専念した結果500号に到達できた次第で、ホーム長以下スタッフ皆様の協力、入居仲間・古い同僚たちの励ましのお陰で感謝で一杯です。好きな作画は今後も続けたいと願っているのでよろしくお願い致します。

以上

鳥井廣吉(93歳)